

寄贈図書リスト

巨大ブラックホールと宇宙, 谷口義明 和田桂一,  
A5判, 186頁, 3,400円+税, 丸善出版

宇宙の「一番星」を探して, 谷口義明, A5判, 156  
頁, 1,900円+税, 丸善出版  
三日月とクロワッサン, 須藤 靖, 四六判, 224頁,  
1,575円(税込), 毎日新聞社

月報だより

月報だよりの原稿は毎月20日締切, 翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので, 締切日よりなるべく早めにお申し込みください。

e-mailで [toukou@geppou.asj.or.jp](mailto:toukou@geppou.asj.or.jp)宛。

なお, 原稿も必ず Faxで 0422-31-5487 までお送りください。

研究助成

第9回(平成24年度)「日本学術振興会賞」  
受賞候補者推薦要項

1. 趣旨

我が国の学術研究の水準を世界のトップレベルにおいて発展させるためには, 創造性に富み優れた研究能力を有する若手研究者を早い段階から顕彰し, その研究意欲を高め, 研究の発展を支援していく必要があります。この趣旨から日本学術振興会は, 平成16年度に日本学術振興会賞を創設しました。

2. 対象分野

人文・社会科学及び自然科学にわたる全分野

3. 授賞

授賞数は25件程度とし, 受賞者には, 賞状, 賞牌及び副賞として研究奨励金110万円を贈呈します。なお, 日本学士院により, 日本学術振興会賞受賞者の中から日本学士院学術奨励賞受賞者が選考されます。

4. 対象者

国内外の学術誌等に公表された論文, 著書, その他の研究業績により学術上特に優れた成果を上げたと認められる者のうち, 平成24年4月1日現在以下の条件を満たす者としします。

- 1) 45歳未満であること
- 2) 博士の学位を取得していること(博士の学位を取得した者と同等以上の学術研究能力を有する者を含みます。)
- 3) 外国人の場合は推薦時点において我が国で5年以上研究者として大学等研究機関

に所属しており, 今後も継続して我が国で研究活動を予定していること(なお, 日本国籍を有する者の場合はこの条件を問いません。)

5. 推薦権者

- 1) 我が国の大学等研究機関の長(機関長推薦)
  - 2) 優れた研究実績を有する我が国の学術研究者(個人推薦)
- ※自薦は受けません。

6. 受付期間

平成24年4月18日(水)~20日(金)(必着)

※受付期間をはじめ事業スケジュールが1ヶ月早まっていますのでご注意ください。

7. 推薦手続や推薦書類の提出先及び問い合わせ先

推薦書類は下記へ, 配達記録の残る方法での送付によって提出してください。

〒102-8472 東京都千代田区一番町8番地

独立行政法人 日本学術振興会

総務部 研究者養成課「日本学術振興会賞」担当

Tel: 03-3263-0912 Fax: 03-3222-1986

ホームページアドレス

<http://www.jsps.go.jp/jsps-prize/>

会務案内

【日本天文学会理事会議事録】

日時: 2012年1月21日(土) 13:00~18:00

場所: 八重洲ホール 302号室

出席理事: 岡村, 杉山, 河合, 本原, 竹田, 松尾,  
田代, 幸村, 茂山, 吉川, 山田, 太田,  
仲野(以上13名)

欠席理事: 梅村, 柏川(以上2名)

また, 西野事務長およびに参考人として国立天文台電波天文周波数小委員会の亀谷 収副委員長と土屋史紀委員が出席した。

## I. 確認事項など

- I-1 議事に先立ち、議長と署名人の確認がなされた。  
議長：岡村定矩  
署名人：竹田洋一，本原顕太郎
- I-2 前回議事録の確認（資料1, 本原）  
資料1に基づき、前回（2011年9月19日）の理事会議事録が報告・確認された。

## II. 報告

## II-1 新事務長紹介

宮下暁彦氏が2011年12月31日をもって退職し、2012年1月1日より西野洋平氏が新事務長として着任したことが報告された。その後、西野新事務長の紹介があった。

## II-2 前回以降の新入・退会等会員の変動（資料2, 本原）

2011年9月10日より2012年1月16日までの間の会員変動が報告された。新入会は正会員37名、準会員12名、団体会員1団体で、退会者は92名、1団体であった。

## II-3 2011年度監査報告（資料3, 本原）

2012年1月18日に国立天文台三鷹において、紀伊恒男および牧島一夫両監事により行われた監査結果が報告された。2011年度事業報告、2011年度会計報告ともに正当であると承認された。

## II-4 事業担当理事の近況

## 1. 年会（配布資料, 幸村）

新法人の会計年度は4月開始となるが、各賞の年度もこれに合わせて変更すると、授賞式を現在の春季年会から秋季年会時に行うようにしないといけなくなるということが指摘された。その場合、秋季年会の開催日数が4日となり、開催地の負担が大きくなる。以上の議論を踏まえ、新法人移行後も各賞の年度は現在のまま1-12月とすることとし、年会開催日数も現在のまま春季4日・秋季3日とした。このとき、企画セッション、特別セッションの開催スケジュールも現在のままである。ただしその場合、各賞に関する内規の変更を行わないといけない事が指摘された。また、現在の年会で非会員発表が全体の二割を超えており、その大部分が学生であることが報告された。これは大学、研究機関が旅費などを負担するようになってきているため、会員になって旅費補助を受けるメリットが相対的に

下がっているためであろう。とりあえず現状のまま様子を見ることとした。また、記者発表の際に高校生に対する大学紹介の活動を紹介したいとの要望があり、実務理事で判断することとした。

## 2. 天文月報（資料4）

柏川月報理事は欠席のため、資料に基づいて報告された。現在、天文月報の寄贈先を再検討しており、大学を中心に寄贈先を増やした案が示された。また、公共天文台や科学館への3ヶ月無料お試しキャンペーンを行っており、新規に一団体が団体会員に加入した。

## 3. PASJ（資料17, 茂山）

編集作業の効率化の一貫として、ページ番号を廃止して論文番号制に移行する。さらに、Subject/Author インデックスの作成も廃止した。2月にコピーエディター1名が退職するため募集したところ、3名の応募があり2名仮採用した。すざく/MAXI 特集号のE-Open に対し大口割引の要望が出されたため、臨時的に半額とした。

また、Oxford University Press (OUP) から編集・販売作業委託の勧誘が来ており、検討を進めている。これにより現在受理から出版まで6ヶ月かかっているのが6週間に短縮される見込みである。また、OUPの販売網に載せることができるため「機関購読数が現在の200から400に倍増するという試算」が出されていることも報告された。

## 4. 天文教育（吉川）

全体的にマンパワーが不足しており、とくにジュニアセッションのメンバーが固定されてきており作業負担が大きい。このため、謝金を支払って事務作業をしてもらう可能性を検討している。また、講師派遣受付システムの検討を進めているが、自動化するのにかかるコストが高いため、引き続き検討をすすめる。

## II-5 事務所の近況報告（西野, 資料5）

現在11名が事務所で作業している。また毎週月曜日に事務所連絡会を行っており、理事長、庶務理事、会計理事が随時出席して情報共有を図っている。

II-6 今後の年会の準備状況

1. 京都大学 (太田)  
開催準備は順調に進行している。
2. 大分大学 (仲野, 資料6)  
懇親会は大分大学生協で行う予定。懇親会終了時の大分市内とのアクセスは、JRに集中することを避けるため送迎バスを手配することを検討している。実行体制については、学内の教員で協力していただけの方を5人程度確保した。アルバイト学生の確保も問題なさそうである。

II-7 林 忠四郎賞選考委員会の構成について (岡村)  
林 忠四郎賞選考委員会の人数が、定員に一人欠けていたことが、選考会当日に判明した。今年度は一名追加する。

II-8 秋季年会中の募金活動について (本原, 資料7)  
2011年秋季年会中に行われた「集まれ! 星たち」キャンペーンによる募金の結果、25名より総額42786円の募金があったことが報告された。これは他の募金と合わせ、日本ユネスコ協会連盟の東日本大震災子供支援募金に送られた。

II-9 2012年春季年会の年会準備幹事 (本原)  
2012年春季年会の開催会場担当の龍谷大学・中山薫二氏に年会準備幹事の肩書きを付与したことが報告された。

II-10 年会補助金の扱いについて (松尾, 資料9)  
2011年秋季年会時に交付された地方公共団体からの補助金20万円のうち、10万円を一般会計に、残り10万円を懇親会会計に繰り入れた。また、年会事業項目に「補助金雑支出」を設定し、年会開催地理事と会計理事で経費の運用を行うことを確認した。

II-11 日韓合同セッション (河合, 資料10)  
2011年10月の韓国天文学会年会時に韓国天文学会と共催した合同セッションについて簡単に報告された。準備時間を考えると2012年秋季年会時に開催するのは難しく、日本側世話人の柴田一成氏と相談して開催時期を再検討することとした。

III. 議題

III-1 PLCに関する声明の検討要請について (本原: 追加資料)

参考人として出席した国立天文台電波天文周波数小委員会の亀谷 収副委員長および土屋史紀委員より、総務省が現在検討を進めている広帯域電力線搬送通信(PLC)の屋外利用は

電力線自身がアンテナになって、2-30 MHzで多量の漏洩電波が発せられるなどの問題点が説明され、日本天文学会として反対声明をだすなどの対応を求められた。これに対し、この技術が社会基盤を支える重要な技術で代替的なものがないものなのか、他の技術もあるのでどうしても導入しないといけないものではない、そもそも国際電波保護帯が存在している周波数帯でありそれを守る必要がある、などの意見が出され、最終的に総務省宛の声明を出すことが承認された。文案については岡村理事長が加筆修正を行い、電波天文周波数小委員会と調整することとした。

III-2 2011年度事業報告書案 (本原, 資料12)

2011年度事業報告書案が説明された。内容としては事業計画書の記載事項と一対一対応させてあるが、年会の報告が冗長になっており次年度以降は簡潔にまとめる予定である。細かな字句の誤りが指摘され、それを修正することを条件に2011年度事業報告書案は承認された。

III-3 2011年度決算報告書案 (松尾, 資料13)

2011年度決算報告書案が説明された。

・一般会計

未収金が大きいが、これはPASJ特集号(SP3)の発行が12月にずれ込んでしまったためで、1月に回収されるものが大部分である。また、PASJの収支が大幅に改善しているが、これはE-Openの収入が500万円以上あったことによる。天体発見賞のメダルを新規の50個製作したため、その支出が大きくなっている。年会は1回しか開催出来なかったものの、秋季年会の講演・参加者が非常に多く、その収入が伸びた。また予稿集の値上げによる増収もあった。最終的な収支は280万円程度の黒字になっている。

・特別会計

早川基金への多額の寄付があり、残高が5000万円を超過した。新たな若手援助の枠組みを議論する必要があるかもしれない。また創立100周年記念事業基金の残金については何らかの形で整理する必要がある。残金で創立100周年記念出版の教科書をまとめて購入し、希望する教育機関に寄付する、という提案がなされた。これに対し、これは日本天文学会会員である著者が印税

を受け取る事になるので、利益の還流行為になるのではないかという指摘があり、会計士に法的側面を相談することとした。

以上の議論を経て、2011年度決算報告書案は承認された。

#### III-4 新法人移行作業

##### ・新定款案（杉山，資料14）

12月までの議論を元に修正された新定款案が説明された。会員種別の定義については出された様々な意見を集約したものとなっているが、理事会としてはこれまでよりも正会員の定義を広げ、天文教育やハイアマチュアも正会員として活動して欲しいという意志を込めたものである。

以上の議論を経て、新定款案は承認された。

##### ・新法人移行スケジュールについて（岡村，資料15）

2013年からの会長候補者については、今年度に選挙を行い、2012年9月の総会で承認する必要がある。また、新理事会は2013年1月の代議員総会で承認された上で発足し、その直後に理事会を行なってそこで会長が選出される。現理事会の任期は、その代議員総会までとなる。

この新法人への移行の際、現在の評議員（20名）が代議員にそのまま移行することを想定しているが、その場合には移行直後は定数（およそ36名）を大幅に割り込むことになる。これは問題ないかについて関係機関に問い合わせることとした。

#### III-5 2012年度春季定期総会議題案（本原，資料16） 各議題案の説明があった後、承認された。

#### III-6 会費及び年会講演料の延滞事務手数料について（本原，資料8）

年会講演登録料の支払いが遅くなった会員より、現在の遅延時に払う事務手数料1000円は高すぎ、消費者契約法に違反しているという指摘があった。これは、消費者契約法第9条で延滞金が年率14.6%を越えてはならないという規定を指摘していると思われる。弁護士に相談した結果、消費者契約法は事業者と消費者の間の契約を制限するものであり、今回の場合、当該の会員は国の研究機関の職員であり今回の研究発表の講演登録料も同機関が支払うため消費者とはみなせないことから、同法は適用されないだろうことが明らか

になった。しかしアマチュアが申し込んだ発表については同法が適用される可能性が高い。今回の年会で講演登録料の支払いをまだ行っていない講演者にアマチュアはいないため、再度の催促を行った上で支払わない講演者については規定通り1000円を徴収することとした。また、次回以降は延滞遅延金と異なる形の講演登録・支払の方式を検討することとした。会費についても同じ問題が発生するため、こちらについては延滞遅延金が年14.6%以下になるように金額を変更することを検討する。

#### III-7 PASJ特集号のE-open割引制度導入について（茂山，資料17）

PASJ特集号に限り、一巻丸ごとE-openとした場合に150万円に割引引くことが提案された。これは論文の本数に関係しない。E-openは一編8万円なので、論文数が19編以上となると割引となる。

以上の説明の後、提案は承認された。

#### III-8 PASJ投稿料免除規定について（茂山，資料17）

研究費を持たない著者のPASJ掲載料の免除規定があり、多くの場合定年退職者が利用している。しかし現在は退職者でも科研費は申請できるので、原則として自助努力で掲載料は工面してもらい、この免除規定は廃止することが提案された。

以上の説明の後、提案は承認された。

#### III-9 PASJの電子版機関購読料について（松尾：資料18）

現在国内年間2万円、海外年間2万3千円に設定されているPASJの電子版機関購読料を研究機関の規模に応じて最大12万円まで引き上げることが提案された。シミュレーションを行った結果、平均販売価格は現在の2倍程度になると期待される。機関規模については、基本的には各機関の申告制とする。また、多少の契約解除は織り込み済みであることが述べられた。以上の議論を経て、機関購読料引き上げが承認された。

次回の理事会は日本天文学会2012年春季年会期間中に開催される。

#### [資料リスト]

資料1 前回理事会（2011/9/19）議事録

資料2 入退会報告

- 資料3 2011年度監査報告
- 資料4 月報理事からの近況報告
- 資料5 事務所報告
- 資料6 2012年秋季年会準備状況
- 資料7 2011年秋季年会中の募金活動報告
- 資料8 会費及び年会講演登録料の遅延事務手数料について
- 資料9 年会補助金の扱いについて
- 資料10 日韓合同セッションについて
- 資料11 事務所確認事項
- 資料12 2011年度事業報告書(案)
- 資料13 2011年度決算報告書(案)
- 資料14 新定款(案) など
- 資料15 新法人移行スケジュール
- 資料16 2012年度春季定期総会議題案
- 資料17 PASJ編集委員会からの報告及び議案
- 資料18 PASJ電子版ライセンスの機関購読価格設定について
- 追加資料1 年会理事からの近況報告
- 追加資料2 PLCがHF帯電波天文観測にもたらす有害干渉への懸念

2012年3月5日

議長：岡村定矩 印  
 署名人：竹田洋一 印  
 署名人：本原顕太郎 印

**【日本天文学会評議員会議事録】**

日時：2012年1月28日(土) 12:00～17:00  
 場所：東京大学理学部1号館336号室  
 出席評議員：伊藤，岡村，牧島，劉，井上，奥村，須藤，嶺重，家，市川，佐藤，柴田，杉山，林(正彦)(以上14名)  
 欠席評議員：海部，渡部，池内，犬塚，林(隆之)，観山(以上6名)

その他，河合副理事長，本原・竹田庶務理事，松尾・田代会計理事，西野事務長，長田哲也研究奨励賞選考委員長が出席した。

なお，岡村理事長と杉山副理事長は評議員を兼任している。

**I. 確認事項など**

- I-1 議事に先立ち，出席者が14名で定足数を満たし，本会が成立することが確認された。また議長と署名人が以下のとおり選出された。  
 議長：須藤 靖

署名人：井上 一，市川幸平

- I-2 資料2に基づき，前回2011年9月20日の評議員会議事録の確認が行われた。

**II. 報告**

- II-1 理事会報告(本原)  
 本原庶務理事より，1月21日に行われた理事会の報告がなされた。
- II-2 事務長交代について  
 宮下暁彦氏が2011年12月31日をもって退職し，2012年1月1日より西野洋平氏が新事務長として着任したことが報告された。その後，西野新事務長の紹介があった。
- II-3 事務所報告(西野，資料3)  
 現在11名が事務所で作業している。また毎週月曜日に事務所連絡会を行っており，理事長，庶務理事，会計理事が随時出席して情報共有を図っている。
- II-4 学術会議報告(須藤)  
 2011年10月より第22期学術会議が活動を開始し，第3部の物理学委員会の下に天文学宇宙物理学分科会が発足した。天文学分野の学術会議委員は，観山正見と須藤 靖の2名。これに17名の連携会員(井上 一，岡村定矩，奥村幸子，面高俊宏，海部宣男，梶田隆章，國枝秀世，小山勝二，佐藤勝彦，芝井 広，柴田一成，杉山 直，中川貴雄，林 正彦，福島登志夫，牧島一夫，森 正樹)と，地球惑星分野の会員である永原裕子を合わせた全20名が分科会委員である。すでに，11月1日と1月4日に2回の会合が行われ，大型計画マスタープラン改定へ向けての意見集約，ビッグプロジェクトには含まれないが科研費ではカバーするのが容易ではない中規模プロジェクトのサポート，シンポジウム開催などの活動目標を設定した。さらに，宇宙開発基本計画に対して，何らかの意見表明を行うことを検討中である。
- II-5 宇宙政策について(井上)  
 宇宙開発戦略本部の下に設けられた宇宙開発専門調査会が1月13日に取りまとめた報告書で今後のJAXAの体制とおおよその方向づけがなされた。具体的には司令塔の機能が内閣府に置かれ，宇宙政策委員会が組織される。JAXAの主務省が文科省というのは変わらないものの，主務大臣にはこれまでの文部科学大臣・総務大臣に加えて，内閣府の長としての内閣総理大臣と，経済産業大臣が追加

される。

これに対し、主務大臣が複数設定されたことは深刻な問題である、実用衛星と科学衛星をどのように選んでゆくかの決定プロセスで官庁間の調整が必要になるため、科学衛星にしわ寄せが来る可能性が高いだろう、科学衛星が今後の衛星技術をリードするような方向性を目指す必要がある、などの議論がなされた。

#### II-6 IAU 報告 (岡村, 資料4)

IAU 北京総会に推薦する新メンバーを選考し、77名の申請に対して研究歴なども考慮した上で74名を適格とした。さらに、国籍の調整をした上で最終的には73名を推薦した。また、現在名簿の更新をウェブで受け付けているので、会員に周知して欲しい。

#### II-7 早川基金報告 (本原, 資料5)

合計19名に補助を行った。この中で、17名は交通費、2名は滞在費の補助である。

#### II-8 林 忠四郎賞選考委員会の構成について (岡村)

林 忠四郎賞選考委員会の人数が、定員に一人欠けていたことが、選考会当日に判明した。理事長はex-officioであることが認識されていなかったための模様。今年度は1名追加する。

#### II-9 延滞事務手数料について (本原, 資料24)

現在の会費および年会講演登録料支払いの遅延時に払う事務手数料は、消費者契約法第9条で延滞金が年率14.6%を越えてはならないという規定に違反しているという指摘があった。調査の結果、契約者が一般の研究者の場合は消費者とはみなせないことから、同法は適用されないだろうが、アマチュアには同法が適用される可能性が高い。そのため、今後は年会講演登録料については延滞遅延金が発生しない形の講演登録・支払の方式を検討することとした。会費については延滞遅延金が年14.6%以下になるように金額を変更する。これに対し、年会講演登録料については、会場での現金の取り扱いを減らすという精神を考えるとやはり事前支払いを徹底するようにすべきだろうとの意見が出された。

#### II-10 日韓合同セッションについて (河合)

2011年10月の韓国天文学会年会時に韓国天文学会と共催した合同セッションについて簡単に報告された。開催地の受け入れ準備態勢を考えると2012年秋の年会時に開催するのは

難しい。2013年春季年会で、通常の企画セッションとして開催し、課題を洗い出すことが提案された。その際は、外国人対応は企画セッションの世話人が行う。この場合、特別な予算措置が必要になるかという質問が出され、運営の一部、特に申込の手続きや事前支払いの部分で外国語に対応する必要があることが指摘された。また、日本側の世話人である柴田評議員より、2011年に韓国で開催された合同セッションの際には講演登録料は会員価格であったことが説明され、日本で開催される場合にも同様の措置をとることが確認された。

#### II-11 サポートレターの発行について (岡村)

2014年度で韓国が開催を目指しているIAU Regional Meetingへのサポートレターを発行したことが報告された。

#### II-12 学会としての情報発信 (家)

福島原発の炉心溶融事故の際、日本気象学会の会長から学会員に対し、SPEEDIのモデルの公表を自粛する要請があり、問題となった。この要請は会長の独断で出された模様であるが、日本天文学会でも危急時の情報発信の仕方のリスク管理を行うべきではないかという提案がなされ、理事会でも検討することとした。

### III. 議題

#### III-1 2011年度各賞受賞者の決定

- ・林 忠四郎賞 (井上, 資料15, 16)  
林 忠四郎賞、欧文研究報告論文賞選考委員である井上評議員より、選考経過、及び最終候補者に田村元秀氏を推薦する理由が説明された後、同氏に授賞することが承認された。
- ・欧文研究報告論文賞 (井上, 資料15, 17, 18)  
同じく井上評議員より選考経過、及びTotani et al. (2006)およびKuno et al. (2007)の2篇を推薦する理由が説明され、推薦通り授賞することが承認された。
- ・研究奨励賞 (長田, 資料19)  
長田哲也研究奨励賞選考委員長より、選考経過、及び今回は該当者無しとすることが説明された。

これに対し、例年に比べて基準が厳しくなったのかという質問がなされたが、そんなことはなくそもそも例年は10名前後ある会員からの推薦が今年度は少なかった。

また、この種類の賞は一度落選すると再推薦しづらいので、落選した候補者の推薦者へ、次年度も応募を促す連絡をすべきではないかという意見も出された。さらに、昨年や一昨年のような淡泊な tennet の注意喚起メールではなく、選考委員会として、天文月報掲載から締切までしっかり注意喚起をするシステムを作り、それを申し送りするのが重要ではないかとの意見も出された。

以上の議論を経て、研究奨励賞は受賞者なしとすることが承認された。

- 天体発見賞・天体発見功労賞（本原，資料19）

天体発見賞選考委員長である渡部潤一評議員が欠席のため、本原庶務理事が資料19に基づき、天体発見賞6名/1グループ15件、及び天体発見功労賞3名3件の推薦理由が説明され、推薦通り授賞することを承認した。また、天文功労賞の長期部門2名、短期部門1名の候補者の推薦理由が説明され、推薦通り授賞することが承認された。

- III-2 2011年度事業報告書（案）（本原，資料8）

2011年度事業報告書案が説明された。内容としては事業計画書の記載事項と一対一対応させてあるが、年会の報告が冗長になっており次年度以降は簡潔にまとめる予定である。

- III-3 2011年度決算報告書（案）（松尾，資料9）

2011年度決算報告書案が説明された。

- 一般会計

未収金が大きいが、これはPASJ特集号(SP3)の発行が12月にずれ込んでしまったため、1月に回収されるものが大部分である。また、PASJの収支が大幅に改善しているが、これはE-Openの収入が500万円以上あったことによる。天体発見賞のメダルを新規の50個製作したため、その支出が大きくなっている。年会は1回しか開催出来なかったものの、秋季年会の講演・参加者が非常に多く、その収入が伸びた。また予稿集の値上げによる増収もあった。最終的な収支は280万円程度の黒字になっている。

- 特別会計

早川基金への多額の寄付があり、残高が5000万円を超過した。公益法人においては使途が決まっていない遊休財産が年間事

業費をオーバーしてはならない。現在、使途を確定させているので大丈夫であると考えられるが、再度確認することとした。

- III-4 2011年度監査結果（牧島，資料10）

監事でもある牧島評議員より、2012年1月18日に国立天文台三鷹で紀伊恒男および牧島一夫両監事によって行われた監査の結果、2011年度事業報告書、2011年度決算報告書ともに正当であることが報告された。

以上の議論を経て、2011年度事業報告書案および決算報告書案は承認された。

- III-5 早川基金の使途について（岡村）

早川基金は設立時に750万円基金から開始されたが、現在残高は5000万円を超えるレベルにまで増えている。これには一個人からの寄付が大きく寄与しており、そろそろ早川基金の枠組みに収まらなくなりつつあるように見える。また、公益法人認定の際、5000万円を超える試算に対し年間250万円の使用予定しかない場合、問題になる恐れもある。若手の海外渡航に対する旅費・滞在費の補助という現在の使途を越えて、若手の育成に資する新たな枠組みの提案はないか、評議員会の意見を伺いたい。

これに対し、現在若手、とくに学生が旅費を獲得するのは格段に楽になっており、旅費以外を考える必要があるのではないかと、若手として最も欲しいと考えているのは奨学金である、奨学金制度が出来れば画期的であるがその場合は定期的な収入を確保する必要があるだろう、などの意見が出た。以上の議論を受け、若手の会でアイデアを募ることとした。

- III-6 新定款案（杉山，資料11, 12, 13）

新定款で修正された部分が解説された。とくに新しい会員資格は、天文教育関係者やハイアマチュアにも積極的に正会員になってほしいという意図が込められている。以上の説明の後、新定款案は承認された。また、今後細部の変更が必要な場合の権限を理事長に委任することも承認された。

- III-7 代議員選挙施行細則（杉山，資料6, 7, 14）

代議員制度に移行する際に、現在の評議員がそのまま代議員となることは認められないことが判明し、今年度中に代議員選挙を行うことになった。このため、本評議員会で代議員選挙施行細則の承認が必要であることが説明された。なお、初代代議員の改選時期と理事

会の入れ替わり時期が同期しないよう、最初の選挙で選ばれる代議員の任期は1年3ヶ月及び3年3ヶ月の2パターンが存在するが、議論の結果、投票の結果の順位が奇数番目のものの任期を3年3ヶ月、偶数番目のものの任期を1年3ヶ月とすることとした。以上の議論のち、代議員選挙施行細則が承認された。また、細部の変更が必要な場合にはその権限を理事長に委任することも承認された。

- III-8 春季定期総会議題（案）（本原，資料21）  
秋季定期総会議題案が説明された後、承認された。
- III-9 会費未納者の除名について（本原，資料22）  
2010、2011年度2年分の会費未納による除名予定者のリストが説明された。2月中に会費の支払いがあった場合には取り消しも可能であることが説明され、承認された。
- III-10 PLCの屋外利用に関する声明について（岡村，資料23）  
資料23で示した、PLCの屋外利用の拙速な認可に対する懸念を表明する声明を出すことが説明され、承認された。

今回の評議員会は、2012年3月20日の春季年会期間中に龍谷大学で開催される予定である。また、次々の評議員会は2012年7月14日に開催される予定である。

#### [資料リスト]

- 資料1 評議員会出欠表  
資料2 前回評議員会議事録  
資料3 事務所報告  
資料4 IAU報告  
資料5 早川基金採択者一覧  
資料6 新法人移行へのスケジュール  
資料7 初代代議員の選定方法について  
資料8 日本天文学会2011年度事業報告書（案）  
資料9 日本天文学会2011年度決算報告書（案）  
資料10 監査報告書  
資料11 新定款（案）修正のお知らせ  
資料12 新定款（案）修正のお知らせ（2）  
資料13 新定款（案）2012年1月25日版  
資料14 代議員選挙施行細則（案）2012年1月25日版  
資料15 2011年度林 忠四郎賞選考委員会（欧文研究報告論文賞選考を含む）選考経過報告  
資料16 2011年林忠四郎賞候補者推薦理由書

- 資料17 2011年欧文研究報告論文賞候補推薦理由書（1）  
資料18 2011年欧文研究報告論文賞候補推薦理由書（2）  
資料19 第23回（2011年度）日本天文学会研究奨励賞選考報告書  
資料20 2011年1月～12月の天体発見賞・天体発見功労賞候補者の推薦  
資料21 2012年度春季定期総会議題案  
資料22 除名予定者リスト  
資料23 要望書「電波天文観測に有害干渉をもたらすPLCの拙速な屋外を進めないこと」  
資料24 会費及び年会登録料の延滞事務手数料について  
2012年3月5日

議長：須藤 靖 印  
署名人：井上 一 印  
署名人：市川幸平 印



## 2011年度日本天文学会各賞について

2011年度日本天文学会各賞は、2012年1月28日の評議委員会で次のように決定しましたので報告いたします。

## ◎天体発見賞（1氏1グループ）

- ・西村栄男（にしむらひでお）氏 新星 いて座V5587の発見
- ・西山浩一（にしやまこういち）氏 新星 いて座V5588の発見
- ・梶島富士夫（かばしまふじお）氏
- ・板垣公一（いたがきこういち）氏 超新星2011Bの発見，超新星2011apの発見  
超新星2011ekの発見，超新星2011fiの発見  
超新星2011fpの発見，超新星2011imの発見  
超新星2011iyの発見
- ・坪井正紀（つばいまさき）氏 超新星2011ehの発見，超新星2011emの発見
- ・広瀬洋治（ひろせようじ）氏 超新星2011hkの発見，超新星2011jhの発見
- ・古山 茂（ふるやましげる）氏 超新星2011irの発見
- ・中村祐二（なかむらゆうじ）氏 新星 さそり座V1313の発見

## ◎天体発見功労賞（3氏）

- ・坪井正紀（つばいまさき）氏 超新星2011Bの独立発見
- ・小島信久（こじまのぶひさ）氏 超新星2011bcの独立発見
- ・板垣公一（いたがきこういち）氏 超新星2011hkの独立発見

## ◎天文功労賞（3氏）

## 長期的な業績

- ・浜野和弘巳（はまのわひろみ）氏
- ・浜野和博子（はまのわひろこ）氏 「長期にわたる緻密なライトカーブ観測による小惑星研究への貢献」

## 短期的な業績

- ・佐藤英貴（さとうひでたか）氏 「特異小惑星における彗星活動の検出」

## ◎林 忠四郎賞（1氏）

- ・田村元秀氏 国立天文台・准教授 研究の表題「太陽系外惑星とその誕生現場の直接観測による研究」

## ◎欧文研究報告論文賞（2編）

- ・論文題目： Implications for Cosmic Reionization from the Optical Afterglow Spectrum of the Gamma-Ray Burst 050904 at  $z=6.3$   
著者： Totani, Tomonori; Kawai, Nobuyuki; Kosugi, George; Aoki, Kentaro; Yamada, Toru; Iye, Masanori; Ohta, Kouji; Hattori, Takashi  
出版年等： PASJ, Vol. 58, pp. 485–498, 2006
- ・論文題目： Nobeyama CO Atlas of Nearby Spiral Galaxies: Distribution of Molecular Gas in Barred and Nonbarred Spiral Galaxies.  
著者： Kuno, Nario; Sato, Naoko; Nakanishi, Hiroyuki; Hirota, Akihiko; Tosaki, Tomoka; Shioya, Yasuhiro; Sorai, Kazuo; Nakai, Naomasa; Nishiyama, Kota; Vila-Vilaro, Baltsar  
出版年等： PASJ, Vol. 59, pp. 117–166, 2007

## 第20回衛星設計コンテスト

本コンテストは、全国の大学院、大学、高等専門学校ならびに専門学校の学生・生徒および高等学校の生徒を対象としており、宇宙にかかわる基礎・応用研究を積極化する機会を提供し、併せてわが国の宇宙開発のすそ野の拡大に寄与しようとするものです。学生の自由な発想による小型衛星をはじめとするさまざまな宇宙ミッションのコンセプト、アイデア、設計構想等を全国から募集し、審査のうえ優秀な作品を表彰します。

本コンテストは、衛星開発の専門家による教育の場でもあります。この観点から、学生の衛星設計への挑戦的な応募に対しては適切な指導を行い、再挑戦も期待しています。

**主催** 日本機械学会、日本航空宇宙学会、電子情報通信学会、地球電磁気・地球惑星圏学会、日本天文学会、宇宙航空研究開発機構、宇宙科学振興会、日本宇宙フォーラム

**後援** 文部科学省、総務省（予定）

**URL** <http://www.satcon.jp>

**応募区分** 「設計の部」「アイデアの部」「ジュニアの部」設計条件および応募方法等の詳細に関しては、衛星設計コンテストホームページ (<http://www.satcon.jp>) でご確認ください。

「設計の部」では衛星設計の确实さを、「アイデアの部」では提案するミッションの独創性・有用性を競います。「ジュニアの部」は自由な発想で宇宙に活用できそうなアイデアに富んだ衛星を提案して下さい。詳細な設計は必要ありません。

**応募資格** 「設計の部」、「アイデアの部」は大学院、大学、高等専門学校、専門学校ならびに高等学校の学生・生徒、「ジュニアの部」は高校生の、グループまたは個人を対象とし

ます（グループの場合は指導教官を含んでも構いません。また、異なる学校等の学生からなる合同チームでも構いません。ただし、1グループは10名以内と制限させていただきます）

応募作品は、過去に応募し、一次審査（書類審査）で落選した作品であっても、指導等を加味し再度検討を重ねて改良したものについては、新たな応募として認めます。

### スケジュール

参加登録受付 2012年4月2日(月)～5月25日(金)

作品応募受付 2012年5月7日(月)～7月13日(金)

第1次審査結果通知 2012年8月下旬～9月上旬

最終審査会 2012年11月10日(土)

最終審査会会場 未定（関東にて開催予定）

**審査** 第1次審査 書類審査により10～15件程度を選定

最終審査 発表会形式の審査会にて第1次審査合格者の中から、設計大賞・アイデア大賞・ジュニア大賞および主催学会等からの賞・審査員特別賞等を選定する。

**コンテスト参加登録料** 3,000円

（参加登録料は参加をご辞退された場合でもお返しできませんのであらかじめご了承下さい）

参加ご希望の方は、募集要領および参加登録様式をホームページからダウンロードいただくか、下記申込先に電話か電子メール等でご請求下さい。

### 問合せ・申込先

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-2-1

新御茶ノ水アーバントリニティビル2階

(財)日本宇宙フォーラム

衛星設計コンテスト事務局（担当：若松・榎）

電話 (03) 6206-4902 FAX (03) 5296-7010

E-mail: [satcon20@jsforum.or.jp](mailto:satcon20@jsforum.or.jp)

(社)日本天文学会へ2011年10月15日～2012年2月17日に入会された方、移籍された方、退会された方、除名された方をお知らせします。

### 正会員入会 (41名)

信田和哉	東北大・大学院理(在学)	岡本雄大	東京理科大・理(在学) ※大学院進学予定
John McFarland	Armagh Observatory	高橋洋輔	早稲田大・先進理工(在学)
鎌田歩樹	東京大・数物連携宇宙研究機構(在学)	三上 諒	東京大大学院理・宇宙線研究所(在学)
小山志勇	埼玉大・理工(在学)	朝比奈雄太	千葉大・大学院理(在学)
馬渡 健	東北大・大学院理(在学)	宮本庸平	名古屋大・大学院理(在学)
伴場由美	名古屋大・大学院理(在学)	日浦皓一朗	北海道大・大学院理(在学)
久保真理子	東北大・大学院理(在学)	権 静美	総研大/国立天文台(在学)
河村幸子	千葉県柏市立酒井根小	藤井浩介	国立天文台・ALMA推進室(在学)
麻生有佑	東京大・理(在学) ※大学院進学予定	南原甫幸	北海道大・大学院理(在学)
清水崇文	首都大学東京・大学院理工(在学)	柴田大輝	東京大・大学院理(在学)
出本忠嗣	名古屋大・大学院理(在学)	手嶋政廣	東京大・宇宙線研究所
大川明宏	茨城大・理(在学) ※大学院進学予定	大浦智史	宮崎大・大学院工(在学)
太田香菜子	名古屋大・理(在学) ※大学院進学予定	桐原崇亘	筑波大・理工(在学) ※大学院進学予定
柴田 将	名古屋大・理(在学) ※大学院進学予定	高橋和也	早稲田大・先進理工(在学)
宮川健太	東京理科大・理(在学) ※大学院進学予定	南 沙里	奈良女子大・大学院人間文化(在学)
青木慶伸	名古屋大・大学院理(在学)	藤野遥子	奈良女子大・大学院人間文化(在学)
渡邊 剛	名古屋大・大学院理(在学)	Gu Li Yi	東京大・大学院理
押山史佳	北海道大・工(在学) ※大学院進学予定	雁部洋久	(株)富士通研究所
長谷川幸彦	大阪大・大学院理(在学)	佐藤良祐	京都大・大学院理(在学)
木村成生	大阪大・大学院理(在学)	大貫裕史	東京工業大・理工(在学)
		木野 勝	名古屋大・理

### 準会員入会 (15名)

畑仲直行	神奈川県横浜市在住	飯塚雄太郎	日本大・理工(在学)
堀江恒男	(株)日立システムズ	米田 晃	(株)日立プラントテクノロジー
千川道幸	近畿大・理工	下條 晃	福岡県糸島市在住
周 小溪	近畿大・総合理工(在学)	徳岡修二	大阪府高槻市在住
大木和雄	東京都練馬区在住	中村康二	国立天文台
佐久間絵理	東京理科大・大学院理(在学)	相原弘和	千葉県佐倉市在住
吉戸智明	筑波大・計算科学研究センター	大柴小枝子	京都工芸繊維大・電子システム工学
矢部あずさ	筑波大・計算科学研究センター		

### 賛助会員入会 (1社)

(株)アド・サイエンス(千葉県船橋市)

### 団体会員入会 (1社)

アルビレオ天文台(兵庫県豊岡市)

### 移籍会員〔準→正〕 (1名)

瀧田 怜 総研大・宇宙科学

## 移籍会員〔正→準〕(20名)

安藤裕康	木村 博	久保良雄	中嶋浩一	藤本眞克	水野孝雄	八木雅文	真柄哲也
千葉庫三	山田善彦	小山博子	小澤 碧	依田崇弘	高木悠平	横田 聡	秋山晋一
柏木雄太	中嶋英也	西澤篤志	荒木宣雄				

## 正会員退会 (50名)

齋藤澄三郎	瀬川昌男	西岡博之	中村 哲	苅谷麻子	河鱒公昭	寿岳 潤	早坂 匡
De Groot Mart		平山昌治	倉田 巧	丸田大蔵	篠崎慶亮	園田絵里	村上紀子
田坂 守	須藤敬輔	坂田 悠	穴田貴康	加藤真理子	小高夏来	結城伸哉	梨本 拓郎
箕輪昌裕	猿谷友孝	井村健二	菅佐原たか子		小野綾子	大濱伸之	平社 航
中島美紀	中村繁幸	渡辺辰雄	福永健介	丘 栞	片瀬徹也	木澤淳基	辻 英俊
阪口 翼	谷井良子	本岡慧子	小川大樹	谷津貴裕	黒島利沙	栗橋 潤	滝沢美里
森原良行	山田真広	八嶋信平	菅谷多都子				

## 準会員退会 (46名)

千葉博嗣	石井孝一	表 正勝	木村精二	木村達也	久保田 諄	監物邦男	佐藤康七
鈴木雅夫	高松 泉	富澤一郎	西見昭彦	久松秀徳	堀内孝義	三上良孝	水野 舜
宮澤 香	山西範明	岩上洋子	小笠原孝志	神崎浩一	曾和俊英	菅原 賢	吉岡秀倫
山崎幸雄	岡野正登	坪根 徹	内山正裕	川瀬彰吾	錦織弘充	青木 尚	小原直樹
村井慎治	高橋光一	恩田香織	小西功記	神谷浩紀	麻畑 仁	高田 拓	中嶋隆三
金井政人	小松智之	黒島善和	奥嶋貴子	高見澤今朝雄		中村正義	

## 賛助会員退会 (1社)

(有)ごとう書房

## 正会員除名 (20名)

山下和之	坂本文雄	中村有希	児玉芳樹	福岡亮輔	齋藤雄二	岸下徹一	永江 修
川瀬徳一	井上裕文	設楽賢司	古間木翔太	松井隆正	吉村真治	村上 健	二元和朗
海田正大	林 秀憲	小杉泰生	荒尾考洋				

## 準会員除名 (8名)

大木健一郎	川道俊見	大野裕之	西本賢太	宮田敬介	浅見敦夫	正村史朗	笹岡重樹
-------	------	------	------	------	------	------	------

## 訃 報

須田和男氏(元 副理事長)が2012年2月20日  
にご逝去されました(享年85歳).  
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

竹内 峯氏(元 理事長)が2012年2月18日に  
ご逝去されました(享年79歳).  
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

**編集委員会より**

**天文月報記事ご執筆用テンプレート  
(SKYLIGHT, EUREKA, 天球儀)**

ご執筆者のために日本天文学会 HP に「投稿用  
Tex/MS Word テンプレート」をご用意いたしました。

<http://www.asj.or.jp/geppou/yoko/template.html>

tex で執筆される方は tex/ あるいは文字コードに  
応じて u\_Tex2/

MS Word で執筆される方は word/ をご利用下さい。  
詳しくは各 readme をお読み下さい。

**天文月報記事投稿用アップローダー**

<http://www.asj.or.jp/geppou-office/toukou/index.php>

■ ログイン法

login: geppou    passwd: toukou

■ アップロードの仕方

アップロード画面にいつてまず必要事項を埋めて  
下さい。するとアップロードに進むことができま  
す。ファイルが複数ある場合は「投稿フォームを増  
やす」ボタンを押して下さい。押す度に欄が増えま  
す。1回あたり全部で最大20 Mbyte まで送信でき  
ます。(それ以上の巨大なファイルのアップロード  
は推奨されませんが、やむを得ない場合は分割して  
お送り下さい)。

■ 注意

投稿者の個人の認証は cookie を利用しています。  
したがって cookie を受け取らないブラウザでは使  
えません。また form の check や可変個数のアップ  
ロードボックスは javascript を利用していますので  
javascript が使えなければこの uploader は使えませ  
ん。その場合は従来どおり、[toukou@geppou.asj.or.jp](mailto:toukou@geppou.asj.or.jp)  
までメールでご投稿下さい。

■ 連絡先

アップローダーに関するテクニカルなご質問は  
[yousuke.utsumi@nao.ac.jp](mailto:yousuke.utsumi@nao.ac.jp) まで、またその他のご質  
問は [toukou@geppou.asj.or.jp](mailto:toukou@geppou.asj.or.jp) までお願いします。

柏川伸成 (天文月報編集長)

天文月報オンライン/投稿用アップローダーの ID とパスワード

ID: asj 2005

パスワード: 雑誌コード (5桁の数字と) **vol98** (5文字) の計 10文字を入力してください。「雑誌コード」とは  
印刷版の月報の裏表紙の右下に書かれている「雑誌○○○○○—▲」の○○○○○の部分です。○○○○○は  
各号共通の数字です。

柏川伸成(編集長), 市来浄與, 勝川行雄, 鈴木 建, 徂徠和夫, 竹井 洋, 野田寛大, 浜名 崇, 廣田朋也, 前野将太,  
山崎 了

平成24年3月20日      発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内      社団法人 日本天文学会

印刷発行      印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-8-8      株式会社 国際文献印刷社

定価700円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内      社団法人 日本天文学会

Tel: 0422-31-1359 (事務所) / 0422-31-5488 (月報) Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595

日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: [toukou@geppou.asj.or.jp](mailto:toukou@geppou.asj.or.jp)

会費には天文月報購読料が含まれます。

©社団法人日本天文学会2012年(本誌掲載記事は無断転載を禁じます)